



第7回キンボールスポーツワールドカップ2013大会レポート



■派遣期間：2013年10月27日(日)～11月5日(火)

■大会期間：2013年10月29日(火)～11月3日(日)

■開催場所：ベルギー・リエージュ州パバンステ

■部 門：男子の部、女子の部

■参加国：男子11カ国、女子8カ国(下記参照) ※新規参加国：チェコ共和国、韓国、中国

■最終順位および予選結果：

★男子の部

- 1 カナダ 予選 54 ポイント (予選 1 位) 延長戦:同ポイントサドンデス勝利→決勝 1 位
- 2 日本 予選 54 ポイント (予選 3 位) 準決勝②勝利→決勝 2 位
- 3 ベルギー 予選 54 ポイント (予選 1 位) 延長戦:同ポイントサドンデス敗退→準決勝①勝利→決勝 3 位
- 4 フランス 予選 47 ポイント (予選 4 位) 準決勝②敗退
- 5 スイス 予選 30 ポイント (予選 5 位) 準決勝①敗退
- 6 韓国 予選 29 ポイント (予選 6 位) 延長戦:同ポイントサドンデス 1 位→準決勝②敗退
- 7 スペイン 予選 29 ポイント (予選 6 位) 延長戦:同ポイントサドンデス 2 位→準決勝①敗退
- 8 チェコ共和国 予選 29 ポイント (予選 6 位) 延長戦:同ポイントサドンデス 3 位→8～10 位決定戦 1 位
- 9 中国 予選 25 ポイント (予選 10 位) 8～10 位決定戦 2 位
- 10 ドイツ 予選 25 ポイント (予選 9 位) 8～10 位決定戦 3 位
- 11 デンマーク 予選 21 ポイント (予選 11 位)

★女子の部

- 1 カナダ 予選 54 ポイント (予選 1 位) 決勝 1 位
- 2 日本 予選 49 ポイント (予選 2 位) 準決勝①1 位→決勝 2 位
- 3 ベルギー 予選 37 ポイント (予選 4 位) 準決勝②勝利→決勝 3 位
- 4 フランス 予選 47 ポイント (予選 3 位) 準決勝②敗退
- 5 スイス 予選 31 ポイント (予選 5 位) 準決勝①敗退
- 6 スペイン 予選 30 ポイント (予選 6 位) 準決勝②敗退
- 7 中国 予選 25 ポイント (予選 7 位) 準決勝①敗退
- 8 デンマーク 予選 21 ポイント (予選 8 位)



日本代表チーム製作
対戦記念交換品(カンパッチ)デザイン

第7回大会にあたる今大会、日本は高見彰団長（日本キンボールスポーツ連盟理事長）、黒川道子総監督（日本キンボールスポーツ連盟代議員）をはじめ、石川剛史男子ヘッドコーチ、柴井健太女子ヘッドコーチ、富山勝由両チームアシスタントコーチ、ほかスタッフ8名（応援団除く）、男子選手12名、女子選手12名合わせて37名の選手団で参加をいたしました。

今大会は、男子11ヶ国（カナダ、ベルギー、フランス、ドイツ、スペイン、デンマーク、スイス、チェコ共和国、韓国、中国、日本）、女子8カ国（男子の参加国よりドイツ、チェコ共和国、韓国を除く各国）の参加があり、チェコ共和国、韓国、中国の3カ国がワールドカップ初参加となりました。

参加11カ国の国旗



今回、日本チームは今まで以上に始動を早め、コーチ陣を決定した後、まず2012年12月開催の第13回キンボールスポーツジャパンオープン・チャンピオンズカップで候補選手を選出し、合宿を月1回ペースで行いました。そして2013年6月に開催された第14回チャンピオンズカップにおいて男女12名ずつの代表選手を選出し、今大会に派遣しました。

大会は10月29日（火）にオープニングセレモニーが開催され、10月30日（水）～11月2日（土）の4日間にて予選、準決勝を実施、11月3日（日）に決勝戦が行われました。試合は7分1ピリオドの3ピリオド先取制で予選各チーム3試合を行い、上位1チームのみが決勝へ。3位～7位が準決勝2試合（2位、5位、7位と3位、4位、6位の対戦）を行い、勝者1チームずつが決勝に進むという方式でした。

大会担当レフリーはカナダから2名、ベルギーから1名、フランスから1名、日本から2名（岡村光洋レフリー、宇江城卓レフリー）の計6名で担当しました。今大会新しい参加国も増え、レフリーは全般に各国のくせのある「オムニキン、色（フランス語使用）」の色の発音の理解に悩まされていました。これは「なまり」と言ってしまうばそれまでなのですが、必ず発声を必要とするキンボールスポーツとしては、競技としての今後の大きな課題のひとつとなりました。



国歌斉唱

日本男子チームは予選3試合3勝の最高勝ち点54ポイントながら、予選第2試合においてスイスに1ピリオド獲得されたことが響き、カナダ、ベルギーに続き予選3位。カナダとベルギーは2ピリオド先取制の延長戦の結果、予選1位カナダ、予選2位ベルギーが決定しました。

男子は予選6位の勝ち点（ほかの条件も含む）で3カ国（韓国、スペイン、チェコ共和国）が並び、こちらも2ピリオド先取の延長戦で順位を決定しました。今回初参加の韓国が接戦の上、勝利し、日本は同じアジアとして喜びを分かち合いました。その後、その韓国とフランスをストレートで破り、決勝へ進むこととなりました。

準決勝時と決勝時はテレビ放映が入っており、地元ベルギーの試合をキンボールスポーツ普及推進のため放映時間に合わせたい意向が主催者である国際連盟より伝えられました。その後放送局の都合からか、なかなか試合時間が定まらず、少々気を揉みました。

女子チームは予選2試合をストレートで連勝。第3試合において王者カナダ、地元ベルギーとの戦い。地元ベルギーの盛大な声援のある中、日本は2ピリオドを奪取。同じく2ピリオド奪取したカナダとの第5ピリオドに1点差でピリオドを落とし、惜敗という結果になりました。この結果、女子は予選2位となり、準決勝へ進出。2位、5位、7位対決となり、偶然に予選第1試合と同じ対戦相手である、中国、スイス戦。ここでも順当にストレート勝ちし、決勝へ駒を進めました。



女子準決勝の中国、スイス戦



歓喜にわくベルギー女子チーム

準決勝での小さな番狂わせは、女子予選 4 位のベルギーが女子予選 3 位のフランスを接戦の末、破ったことです。やはり地元ベルギーの大声援が影響したのでしょうか。



観客も大盛り上がり

今大会は観戦有料（1日 1.5 ユーロ、決勝 3 ユーロ、5日間通し 5 ユーロ）である中、観客の入りか毎日本当に多かったことが驚きのひとつです。過去の全 6 回大会と比較しても一番であったと思います。最終日は立ち見客がでるレベルの超満員でした。文化の違いはあるとは言うものの、この点に関しては、ベルギーを手本として、日本でもこの状況で大会が開催できるよう目指していきたいと考えています。ベルギーでできるなら、日本でも必ずできるはずですよ。



大会演出においても、今までで一番よりエンターティメント性の高いものでした。電光掲示板のモニターが体育館にない中、代用的に特別な大型スクリーンを使った、得点の掲示 (ipad の拡大) やどの反則かの表示等は観客を意識した画期的なものでした。あわせて、その大型スクリーンを使った動画放映やカウントダウンを行っての試合開始などは観客との一体感を表現できていて、一観客としても楽しむことができました。

大型スクリーンも大活躍

最終日 11 月 3 日 (日)。男子の順位決定戦のあと、女子決勝戦。嬉しい出来事がありました。フランスの選手団が日本の応援を買って来てくれました。なんと、はちまきを自作で用意して日本の応援席にきてくれました。今大会の日本チームのプレーと態度に共感してくれたとのこと。今大会、プレーの精度の高さは各国よりの関心の的でした。

今大会、応援は日本が一番目立っていました！



女子決勝開始。日本チームは予選ではカナダから 2 ピリオドを奪っていたため、試合前の期待値は最大であったのですが、決勝戦ではカナダがストレートで 3 ピリオドを取り、カナダ優勝。力の差を見せつけられる結果となりました。気持ちが切れるシチュエーションでもありましたが、気持ちを切らすことなくベルギーとの 2 位決定延長戦サドンデスでは 5-0 の圧勝で、銀メダルを決めました。

女子決勝のカナダ、ベルギー戦



最後に行われた試合が男子決勝。今大会、ここまで純粋なる組み合わせの妙により、王者カナダと地元ベルギーとの対戦がなかった日本。試合開始後、接戦ながら2ピリオドを連続で奪われた後がない中で、第3ピリオドをサドンドスの末奪取。ここから追い上げとなる中の第4ピリオドに力つき、カナダ11点/日本10点/ベルギー9点の結果となり、カナダが3ピリオド獲得で優勝。1ピリオド獲得していた日本が準優勝、3位ベルギーという結果になりました。

男子決勝のカナダ、ベルギー戦



銀メダル

もうひとつ嬉しい報告もあります。女子のMVPに日本チームのキャプテンである鳥巢裕梨子選手が選ばれました。各国の選手、コーチ、主催者（国際連盟、ベルギー連盟）の投票で決定されました。鳥巢選手は特にレシーブの評価が高かったとのこと。日本チームからMVPが選ばれたことは嬉しい限りです。なお、その他に男子のMVPはKevin Crousse選手（ベルギー）、フェアプレー賞にFrancois Martin選手（フランス）がそれぞれ選出されたことを報告いたします。

ただ、近づいてはいるものの、カナダはまだ先頭を走っています。各国の代表者、指導者と話をしている同じ気持ちになるのですが、競技として、競技の母国が長く勝ち続けている点は競技としても未熟な競技と見られがちであるので本意ではありません。カナダ人においてもこの気持を持っている人もいます。競技としての地位の向上の観点からも、この状況を打破しなければキンボールスポーツ界に明るい未来はありません。そのためには何をすべきなのかを、各々の立場から考えることがもっとも大事なことではないでしょうか。



個人賞受賞者

第4回大会から始めた寄付のお願いですが、今回も日本全国の皆様から多数の寄付金いただきました。

また、多くの壮行会、激励会開催や、ワールドカップ期間中の昼夜を問わずのご声援も数多くいただきました。

皆様のご支援ご協力に深く感謝しております。ありがとうございました。

MERCI!

2015年の次回ワールドカップの開催地はスペインと決定いたしました。まだ日程、場所等の詳細は決定しておりませんが、日本代表はまもなく次回大会に向けて新たなスタートを切ります。ぜひ、次はさらに多くの皆さまと現地で共有できれば、日本でのキンボールスポーツの普及推進にも役立つことと確信しております。今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

★公式大会ホームページより各種写真、結果詳細がご覧いただけます。

公式大会ホームページ <http://www.Kin-ball2013.be/site/>

※フランス語表記と英語表記があります。